Slovenia Monthly March 2016
vol.3-no.3

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館　発行日：2016年4月1日

~3月の主なポイント~

**難民問題：** ツェラル首相は、難民問題を巡るEU･トルコ間の合意に関し、「本合意はバルカンルートの閉鎖を意味し、スロベニアは合意への道筋作りに主体的な役割を果たした」旨発言。

**政治：** ハーグ仲裁裁判所は、仲裁裁判は最早無効とするクロアチアの主張の法的な影響につき立場を決定しない限り、最終的な裁定は下さないとの方針を決定。

**経済：** 政府系シンクタンクのIMADは、2016年度のGDP成長率を2．3%から1．7%に下方修正。日系企業「安川リストロ」社及び「ダイヘン・バストロイ社」が2015年に好調な業績を記録。

**社会：** 世界観光機関（WTO）は、「最も早く成長中の観光地」として「Patwa International Award」をスロベニアに授与。

## 難民問題

●1日、トゥスク欧州理事会議長は、ツェラル首相と会談し、シェンゲン領域復活におけるスロベニアの役割を強調し、西バルカン諸国の協力改善に向けたイニシアチブに謝意を表明した。

●4日、ツェラル首相は、ドイツがOpen door政策を標榜する一方で、国境における難民の通過を制限し、墺に深刻な影響を与えているのはダブルスタンダードと批判した。

●5日、スロベニア国会は、庇護申請手続の迅速化、申請基準の厳格化及び申請を却下された者による不服申し立て期限の短縮等を盛り込んだ、国際保護法の改正案を採択した。

●9日午前0時、スロベニア政府は対クロアチア国境におけるシェンゲン規則の完全適用を再開。これにより、適切な書類を保持する者、スロベニアで庇護申請を希望する者及び人道的ケアが必要な者のみの入国が許可されることとなった。

●9日、ツェラル首相は、EU･トルコ間の基本合意を、全ての密航業者及び不法移民に対する「バルカンルートは最早存在せず、閉鎖された」との明確なメッセージとして評価した。

●16日、クロアチア訪問中のブルグレス国会議長は、クロアチア側からの国境でのフェンス撤去要請に対し、「フェンスの問題は、難民危機の際の両国間の信頼の欠如の結果発生した。撤去のためには、状況の変化及び両国間の信頼･協力の回復が必要であるが、現時点で難民のバルカンルートがどうなるかは明確ではない」との立場を表明した。

●18日、ツェラル首相は、難民問題を巡るEU･トルコ間の合意に関し、「本件合意は、バルカンルートの閉鎖を意味するもので、スロベニアは主体的な役割を果たし、合意への道筋を作った」旨発言した。また、対クロアチア国境におけるフェンスの撤去については、「状況を引き続き注視しつつ、最早フェンスが必要ではないとの十分な確証が得られれば、少なくとも一部については撤去されるであろう」旨述べた。

●22日、スロベニアを訪問したコバチ･クロアチア外務･欧州問題相は、エリヤヴェツ外相との会談において難民問題を巡る両国の協力を評価した。

●24日、スロベニア政府は、EUによる難民問題の解決に向けた対トルコ支援として523万ユーロを拠出することを決定した。EUの対トルコ支援額の総額は20億ユーロであり、そのうち、スロベニアの負担分は0．26%となっている。

●28日、スロベニア沿岸部の対クロアチア国境（セチョヴリェとドラゴニャ国境の間）から難民6名が入国した。これらの6名はスロベニアに庇護を申請している。沿岸部の正規の国境通過ポイントではない国境

線からの難民の越境は今回が初めてのケース。
●29－31日、パホル大統領、ツェラル首相及びエリヤヴェツ外相はスロベニア訪問中のボズキル・トルコEU担当相と会談し、EUとトルコは、難民問題に関するEU・トルコ間の合意を効率的かつ迅速に履行するために共に努力しなければならないという考えで合意した。

## 政治

【内政】

**●ツェラル内閣のマリボル訪問【9日】**

9日、ツェラル首相は、現政権が定期的に実施している地方視察の一環として、マリボル市を中心とするポドラヴィエ地方の視察を行い、フィシュトラヴェッツ・マリボル市長等との間で意見交換を行った。ツェラル首相は、「開発が遅れている同地域への今次訪問の目的は、同地域の開発のために国家、自治体、企業及び関連機関の共通の関心事項を見つけることである」旨述べた。同視察には、経済開発・技術相、インフラ相、公共行政相、労働相、教育相及び環境相が同行した。

**●タバコ規制法案に対する欧州委員の反応【21日】**

21日、スロベニア訪問中のアンドリュウカイティス欧州委員（保健・食品安全担当）は、スロベニア政府が検討中のタバコ規制法案改正案につき、大変包括的なものであるとして賞賛した。また、同欧州委員は、「スロベニアはタバコ規制にかかるEU指令を活用し、同指令が想定していた以上に厳しい措置を導入しようとしており、今後、より多くのEU加盟国がスロベニアに追従することを期待する」旨述べ、法改正案に支持を表明した。

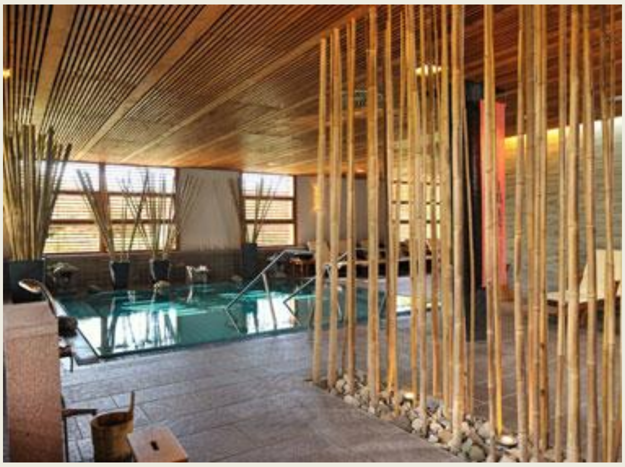
**●スロベニア軍の現状に関する報告書に対するパホル大統領の反応【30日】**

30日、スロベニア軍の状況に関する報告書がパホル大統領に提出され、同報告書は、スロベニア軍はかろうじて平時における作戦に対応出来るのみで、危機や戦争時の作戦に対する準備度は不十分であると結論づけた。これに対し、これに対し、パホル大統領は「スロベニア軍の能力維持は、財政及び難民危機に続き、治安上の危機が発生している現状で重要である。スロベニアは、国防費増額のために政治的コンセンサスを見いだしていくべきである」との考えを示した。

### スロベニアに迫る！⑭

**知られざる温泉大国スロベニア**

ヨーロッパで温泉というとハンガリーやドイツが有名ですが、スロベニアにも政府により正式に認定された温泉リゾートが15カ所あります。以前は、スロベニアの温泉リゾートといえば、旧ユーゴ時代に作られた療養施設的傾向の強いものが多かったのですが、近年、各地の温泉リゾートは競い合って施設のリノベーションを行って来ており、オーストリア、ロシア、ドイツ、クロアチアといった国々から多くの観光客が訪れています。代表的な温泉リゾートとしては、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が社長時代に施設の大改修を行い、再建に成功した「Terme Olimia」や、水温約40度の日本式風呂を有する「Delenjske Toplice」の「Wellness Centre Balnea」があります。但し、「Balnea」の日本式風呂は男女混浴で水着着用不可のサウナ・セクションにありますので若干勇気が必要かもしれません。



（Balneaの日本式風呂：terme-krka.com）

(写真：Terme Olimia)

【外政】

**●国連事務総長選挙の立候補に関するトゥルク前大統領の発言【10日】**

10日、トゥルク前大統領は、エジプトの日刊紙に対し、「次期国連事務総長の選出は性別の問題ではなく、国連加盟国が次期事務総長を選出に際し、少なくとも厳密には性別を判断材料とすることはないと考える。自分の立候補は、奉仕、実績及びビジョンという理念に基づくもので、国連は、国際紛争の調停及び人権保護の分野でより多くの貢献が出来ると考えたからである」との考えを表明。

**●プーチン・ロシア大統領に対する戦争犠牲者追悼式典への招待【14日】**

14日、パホル大統領は、本年7月に開催予定の第1次世界大戦中にスロベニアで死亡したロシア人捕虜の追悼式典に、プーチン・ロシア大統領を招待することを決定した。今回の訪問は非公式なもので、ビジネス代表団の同行や、二国間合意の締結は想定されていない。

**●スロベニア・クロアチア間の国境線画定に関する仲裁裁判を巡る動き【18日】**

18日、ハーグ仲裁裁判所は、スロベニア側による違反行為により、仲裁裁判は最早無効とするクロアチア側の主張の法的な影響を調査し、本件につき立場を決定しない限り、裁定は下さないとの方針を決定し、それまでの間、両国間の領土及び領海に係る裁定に関する如何なる検討も停止するとの立場を発表した。これに対し、パホル大統領は、「同裁判所の決定は驚くべきものではなく、同裁判所は裁定を行うために必要となる状況の精査を通じ、活動を継続していくものと考えている」旨述べた。

**●ブラッセルでのテロ事件を受けた反応【22日】**

22日、ブラッセルでの連続テロ事件を受け、パホル大統領、ツェラル首相及びエリヤヴェツ外相は、今次テロ事件を強く非難すると共に、犠牲者の家族に対し、深い哀悼の意を表明した。また、パホル大統領は、フィリップ・ベルギー国王宛の書簡で犠牲者への哀悼の意及びスロベニア国民の連帯を表明した。

**●エリヤヴェツ外相のベラルーシ訪問**

25日、エリヤヴェツ外相は公式招待に基づきベラルーシを訪問し、マケイ外相と会談を行った他、ルカシェンコ大統領及びコビヤコフ首相を表敬した。今次訪問には10社超のスロベニア企業の代表が同行し、外相会談においては2月にEUが対ベラルーシ制裁の殆どを廃止したことを受けた経済協力につき意見交換が行われた。

**スロベニアに迫る！⑮**

**プラハの近代建築の発展に大きく貢献したスロベニア人建築家**

1872年にリュブリャナで生まれたヨジェ・プレチニックは、欧州でも最も独創的な分離派の建築家・都市計画家の1人として知られています。スロベニアではリュブリャナ市内の三本橋や聖ミカエル教会が代表的な建築物ですが、プレチニックは1911年からプラハに移住し、プラハ工芸学校で教鞭をとる傍ら、チェコスロバキア大統領（当時）の顧問建築家としてプラハ城と大統領府の修築に携わりました。その後、プレチニックはプラハで最も有名な教会の1つである、聖心教会（Church of the Most Sacred Heart of Our Lord）をデザインし、チェコにおける名声を確たるものとしました。

この功績を讃え、2014年にゼマン・チェコ大統領がスロベニアを訪問した際にも、プレチニックの眠るリュブリャナ市内の墓地を訪問しました。

なお、現在、スロベニア及びチェコ政府は、両国にあるプレチニックの代表的な建築物のユネスコ世界遺産登録を申請中です。

プレチニックの主な作品

・ツァッヘル・ハウス（オーストリア）
・三本橋（スロベニア）
・聖ミカエル教会（スロベニア）
・スロベニア国立大学図書館（スロベニア）
・リュブリャナ中央市場（スロベニア）
・ジャレ墓地（スロベニア）
・聖心教会（チェコ）
・プラハ城・大統領府の修築（チェコ）

（聖心教会、写真：prague-guide.co.uk）

## 経済

【マクロ経済・統計】

**●欧州委によるスロベニア経済に対する警告【4日】**

4日、スタンチッチ駐スロベニア欧州委事務所長は、2月末に、欧州委が発表した経済観測につき、「昨年の経済は堅調なペースで回復し、マクロ経済指標もポジティブなものであるが、スロベニアは油断できる状況にはない」として警鐘を鳴らした。また、同事務所長は、「現在、欧州が直面する外部からのリスク要因は増加傾向にあり、この現在の良好な経済状況を背景に必要な改革を行うと共に、課題に対処していくべきである」と述べた。

**●政府系シンクタンクによる春期経済観測【16日】**

16日、政府系シンクタンクのIMADは、2016年度のGDP成長率に関する予測を2．3%から1．7%に下方修正した。この数値は、前年（2015年度）の成長率2．9%と比較し、景気回復が鈍化することを意味している。また、2017年度の成長率の予測については2．4%とし、景気は改善するとの見通しを示した。

17日、これに対し、ツェラル首相は、「IMADによる経済成長率の下方修正は悲観的になる理由とはならないが、我々が、状況改善のための方策を見いださなければならない理由とはなる。景気が悪化しているように報じられているが、成長率が当初の予想より低くなるだけであり、引き続き、上向きであることに変わりはない」との考えを示した。

**●「フィッチ」社は現在の格付けを据え置き【29日】**

29日、格付け会社「フィッチ」社は、スロベニアの格付けの見通しを発表し、長期外貨建て及び国内通貨建て格付けを「BBB＋」、「ポジティブ」に据え置いた。他方、同社は、「現時点で格付けの下方修正に繋がるような事態は想定していないが、公的債務の削減、低調な経済成長及び長期的なデフレ傾向は、将来的な下方修正に繋がる可能性がある」旨警告している。

**●IMFによる経済観測【29日】**

29日、IMFは経済観測を発表し、2016年のGDP成長率を昨年秋の経済観測における1．8%から1．9～2%への上方修正した。IMFは輸出及び国内消費の増加がGDP成長率を押し上げるとの見解を示しつつも、政府が必要とされている改革を行わなければ、2017年の成長率は1．5%程度にとどまる可能性があるとの見方を示した。

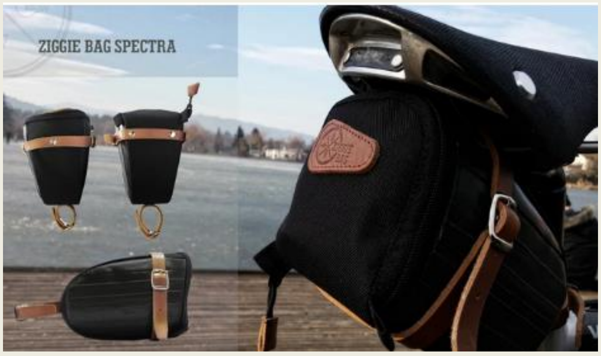
**●政府の財政赤字が2008年ぶりに対GDP比3%以下に【31日】**

31日、政府統計局は、2015年度の財政赤字が8億3600万ユーロで対GDP比2．2%となり、2014年の4．9%から大幅に減少し、2008年以来初めて、3%以下となったことを発表した。スロベニア政府は、欧州委との合意に基づき財政赤字を対GDP比3%以下に抑える必要があり、この目標を達成した。

**スロベニアに迫る！⑯**

**リサイクル素材を使った製品開発**

スロベニアは豊かな自然に恵まれた、環境意識の高い国として知られており、多くのスロベニア企業が環境に配慮したエコ商品の開発に取り組んでいます。また、環境意識の高いスロベニア国民は、自転車好きとしても知られており、リュブリャナ市をはじめとし、全土にサイクリング・ロードが整備されています。この2つのスロベニアの特性を融合させた商品をご紹介します。現在、ベンチャー企業「Ziggie Bag Team」が開発中の自転車用バッグ「Ziggie Bag」は古タイヤのチューブを素材として製造され、貴重品の収納のみならず、スマートフォーンの充電機能やLEDライトも装備しています。ちなみに、同社のスローガンは「Don't just cycle... Recycle」だそうです。ご関心のある方は、次のクラウド・ファンディング・サイトで商品化に協力してみては如何でしょうか。
（https://www.kickstarter.com/projects/1313897411/ziggie-bag-dont-just-cyclerecycle）




（写真：Ziggie Bag Team）

【金融・企業関係】

**●スロベニア政府による貿易・FDI拡大に向けた政策【1日】**

1日、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、2020年までにスロベニアを高度に国際化された経済にすることを目標とし、製品の輸出及び外国からの投資誘致に向けた活動の予算を増額するとの計画を発表した。同計画によれば、2016年度は500万ユーロをビジネス国際化に関する活動に割りあて、2017年度には800万ユーロに増額する。また、同大臣は、「スロベニアを外国投資家にとりより魅力的な投資先とするには、税制、労働法及び行政障壁の3つの鍵となる分野において構造改革を行わなければならない」との考えを示した。

**●スロベニア政府が中国資本のバス製造会社への補助金付与中止を決定【9日】**

9日、ポチヴァルシェク経済開発・技術相は、中国企業が主要株主となっている同市のバス製造会社「タム・ヨーロッパ(TAM Europe)」社に対するスロベニア政府による投資インセンティブ供与の検討を中止した旨明らかにした。その理由として政府は、同社が必要な書類を提出しなかったためとしている。

**●ダイヘン・バストロイ社の2015年度の業績【20日】**

20日、「スロベニア通信」は、「レンダヴァ市に所在する日系ロボット溶接機専門メーカー「ダイヘン・バストロイ」社の2015年の収益は1150万ユーロで、対前年比で20%増となり、2016年度は更に10%増を見込んでいる。この好調な業績は、2年前に破産の危機から日本のパートナーに救われた「バストロイ」社にとり、大きな転機となった」旨の記事を掲載した。

**●欧州ロボットフォーラムの開催【21日】**

21日、リュブリャナにおいて欧州委員会等の主催で「欧州ロボットフォーラム」が開催され、EUにおけるロボット政策等につき欧州委員会、オランダEU議長国、欧州議会及びロボット産業の代表等との間で活発な意見交換が行われた。本件フォーラムの会場には、ロボットメーカー各社によるブースが設置され、我が国のロボットメーカーからは「安川電機」、「Fanuc」及び「ダイヘン」社が展示を行った。

**●コペル港湾会社の民営化反対にかかる動き**

10日、マティッチ・コペル港湾会社社長は、「コペル～ディヴァチャ間の第2鉄道路線建設及び運営のための特別会社設置は、最適な解決策とはならない。コペル港湾会社の現在の経営モデルは効率的で、良好な業績を上げている。特別会社が設置されれば、コペル港湾会社の民営化に繋がる虞がある」旨述べた。

26日、コペル港湾会社は、過去数週間に同社社員がリュブリャナにおいて署名活動を行った結果、同社の民営化に反対する署名を2万1千集めた旨発表した。同社によれば、本件署名活動の目標は、コペル港の重要性及びコペル～ディヴァチャ間の第2鉄道路線建設のスロベニア経済にとっての重要性の認識を高めるものとしている。

**●アドリア航空の民営化【15日】**

15日、国有企業の民営化リストに掲載されているアドリア航空の民営化手続きが完了し、独企業再建投資会社「4K invest」が正式に大部分の株式を保有する株主となった。アドリア航空の民営化をめぐっては、本年1月に, スロベニア国家ホールディング(SSH)、銀行資産管理会社(BAMC:云わゆる「バッドバンク」)及び「4K invest」社の間で、経営安定化のために、国が310万ユーロ, 「4K invest」社 が100万ユーロの計410万ユーロにおよぶ資本増強を行うことで合意していた。「4K invest」社は、本資本増強が完了したことを受け、国より約83%の株式を象徴的価格である10万ユーロで購入し、資本増強参加により獲得した約13%の株式と合わせて約96%の株式を獲得した。

**●マリボル信用銀行の民営化【17日】**

17日、中央銀行は、国有企業の民営化リストに掲載されている「マリボル信用銀行(NKBM)」を米国の「アポロ・グローバル・マネージメント(Apollo Global Management)」(企業買収ファンド)及び「欧州復興開発銀行(EBRD)」が合同で設立した「Biser Bidco」社に売却することを承認した。同行の売却については、2017年7月にアポロが80%、EBRDが20%の株式を、双方合計で2億5千万ユーロで取得することで合意されていたが、監督官庁である中央銀行は、両者に対し、「Biser Bidco」社に関する情報及びNKBM再建に関する戦略的プランの提出を求めていた。

**●安川電機の2015年度の業績【27日】**

27日、欧州安川電機の子会社である安川・リストロ社及び安川スロベニア社のコスレル社長は、安川リストロ社（産業用ロボット生産）の売上げが、対前年比で900万ユーロ増の2980万ユーロとなり、安川スロベニア社（設計・企画・営業）の売上げが対前年比で微減の約400万ユーロとなった旨発表した。また、同社長は安川電機のロボット製造拠点のスロベニアへの誘致に関し、「政府の支援なしではスロベニアへの誘致は実現しないであろう」との考えを示した。

**●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線の建設・運営のための特別会社の設立【31日】**

31日、スロベニア政府は、PPP方式に基づき、コペル～ディヴァチャ間の第2鉄道路線の建設・運営を行う特別会社である「2TDK」社を設置した。「2TDK」社は当初は政府が100%の株式を保有することとなり、2016年及び2017年に政府は2億ユーロの資本を投入し、同路線の建設・運営にかかる事業に参入する民間投資家及び関係国の政府が、追加的な資本注入を行うこととなる。ガシュペルシッチ・インフラ大臣は、「同社の設立は、第2路線建設に向けた大きなステップである。世界市場には豊富な余剰資金があり、銀行より高い利益を生み出す良質なプロジェクトを探している投資家は、本件プロジェクトに関心を示すものと思われ、投資家誘致に心配はしていない」との考えを示した。

## 社会・文化・スポーツ

**●世界観光機関がスロベニアを「最も早く成長中の観光地」として表彰【11日】**

11日、世界観光機関（WTO）は、「最も早く成長している観光地」に与えられる「Patwa International Award」をスロベニアに授与し、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣がリファイWTO事務局長から同賞を受け取った。ドイツで開催された国際観光展「ITB Berlin」での授賞式において、リファイ事務局長は「スロベニアは生きている間に一度は訪れるべき観光地だ」と述べた。また、同展示会においてスロベニアの観光地を紹介するビデオが2つの賞を受賞した。

**●スキージャンプ・ワールドカップで日本が善戦【17－20日】**

17日から20日にかけてスロベニア北西部のプラニツァにおいてスキージャンプ男子ワールドカップが開催され、19日の団体戦で日本は第4位、20日の最終第29戦フライングヒルで葛西紀明選手が227メートル、231．5メートルを飛び、第4位と表彰台は惜しくも逃したものの善戦した。

団体戦では、ノルウェー（第1位）、スロベニア（第2位）、オーストリア（第3位）、日本が第4位となった。

個人最終戦では、ペテル・プレウツ（第1位、スロベニア）、ロベルト・クラネッツ（第2位、スロベニア）、ヨハン・アンドレ・フォルファン（第3位、ノルウェー）に続き葛西選手が第4位に入賞し、伊東大貴選手は第14位、竹内択選手が第17位の結果となった。

また、17日の第27戦で葛西選手は前人未踏の通算500試合出場を達成し、地元スロベニア人ファンから大きな祝福を受けた。

**スロベニアに迫る！⑰**

**スロベニアの写真家が「Sony World Photography Award」を受賞**

スロベニアのアマチュア写真家であるアンドレイ・タルフィラさん（Andrej Tarfila）の作品が「Sony World Photography Award」の「Open Travel」部門を受賞しました。受賞した作品は、スロベニアのクラン市とシュコフィア・ロカ市の境に位置するシロコ・ポリェ（Siroko Polje）の聖ウルシュラ教会を撮影したもので、世界中から応募のあった約9万5千もの作品の中から選ばれました。

なお、タルフィラさんは、876名もの写真家が作品を応募した「Slovenia National Award」も受賞しています。

（写真：スロベニア通信）

発見！スロベニア

**ポストイナ鍾乳洞のホライモリ(Proteus)の産卵**

最近、スロベニアのシンボルの1つとなっているポストイナ鍾乳洞のホライモリが、同鍾乳洞の展示用水槽の中で産卵しました。生物学者によれば、ホライモリは約3週間かけて産卵を行うそうですが、今回は、2ヶ月という長期間にわたり、56個の卵を産卵したとのことです。ホライモリは100年以上の寿命がありますが、産卵は10年間に1－2回のみで、水槽の中での産卵は非常に珍しいケースです。

卵の孵化には140日、性成熟にはその後14年かかり、幼生はおよそ4ヶ月でほぼ成体と同じ外見となります。

（写真：ポストイナ鍾乳洞）

ホライモリは体色が白く白人の肌に似ていることから、スロベニアでは”人の魚”を意味するスロベニア語: človeška ribicaとしても知られており、本種に関する最初の言及は1689年のヤネス・ヴァイカルト・ヴァルヴァソルの著作に遡ります。また、本種をドラゴンの幼体であるとする民間伝承もあるそうです。

（写真：ポストイナ鍾乳洞）

スロベニアでの保護活動は1922年に、他の全ての洞穴性生物の保護活動とともに始まりましたが、これはあまり効果的ではなく、かなりの数の個体が捕獲されて流通しました。1982年には本種は、取引が禁止される希少な絶滅危惧種のリストに含められ、スロベニアのEU加盟後は、本種がEUの生息地指令に含まれていることから、これに順ずる枠組みが設定されました。なお、スロベニアのレッドリストでは、本種は絶滅危惧とされています。

（写真：ポストイナ鍾乳洞）

2013年6月に秋篠宮同妃両殿下がスロベニアを御訪問された際に、両殿下はポストイナ鍾乳洞にもお立ち寄りになりましたが、生物学者でもある秋篠宮殿下は、洞窟内の特殊な環境に適応する形で進化を遂げ、洞窟外では生存できない特殊なホライモリの生態に深い関心を示されました。

（写真：ポストイナ鍾乳洞）

（写真：ポストイナ鍾乳洞）

現在、ポストイナ鍾乳洞ではホライモリの卵を一般公開中で、ビデオカメラを通じて見ることが可能です。（http://www.postojnska-jama.eu）

※掲載内容は、スロベニアの報道をまとめたものです。

**在スロベニア日本国大使館**
電話：+386-1-200-8281 又は 8282、Fax：+386-1-251-1822、Email：info@s2.mofa.go.jp
Web：http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html
●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。
●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。
　info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックが出来ました！
　当館のフェイスブックでは、スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせやレポート、スロベニア事情等の情報を随時発信しております。「いいね！」ボタンで当ページのフォローをよろしくお願いします。
https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia

**【文化行事のお知らせ】**
●日本人形展
古来の風習に育まれた「雛人形」「五月人形」、古典芸能に材をとった「能人形」「文楽歌舞伎人形」、日本各地の人形、現代工芸作家による創作人形など日本の代表的な人形を紹介する展覧会です。大小合わせて約70 点の人形が展示され、見応えのある内容になっています。
期間：４月５日～６月５日（予定）
場所：マリボル地域博物館（Maribor Regional Museum）
　　（住所：Grajska ulica 2, 2000 Maribor）

●Asian Culinary Day 2016
リュブリャナ市郊外のズビリエ湖畔の広場にて、日本食を中心に中国・インド・タイ料理等「食」をテーマにした Asian Culinary Day が開催されます。「食」のスタンドのほか、日本文化紹介コーナーもありますので、是非足を運んでみてはいかがでしょうか。
日時：４月２３日（土）午後１４：００～
場所：ズビリエ湖畔多目的広場

**【領事からのお知らせ】**
**●「たびレジ」に簡易登録機能がつきました！**
　たびレジとは、いざという時、在外公館などから緊急時情報提供を受けられる外務省の海外旅行登録システムです。
　この度このたびレジに簡易登録機能がつきました。メールアドレスと対象国・地域だけを登録することで、実際の渡航の有無やその旅行期間に縛られることなく、継続的に領事メール及び最新海外安全情報メールを受け取ることが可能となります。（ただし、緊急時の安否確認の対象とはなりません。）
https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/